

(仮称) 学研北生駒駅北地区 構想図案 (解説版)

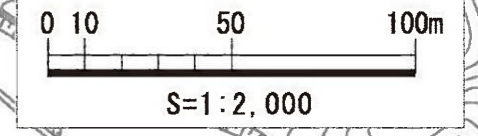
切土量 (処分土量) を抑えた造成計画

- ・事業成立性を高めるためには、**切土量や持ち出す土量 (処分土量) を少なくし、工事費を抑えることがポイント**となる。
- ・できるだけ現状の山への切り込みを抑えた**道路や宅地の計画**とする。

緑のまちなみ形成

- ・四季の森公園が隣接することから、地区の宅地を少しでも広く取るため、新たに大規模な公園を整備することは避け、**小規模なポケットパークの設置や民間宅地内の緑化を促進し、緑のまちなみ形成を図る。**

〇〇〇: 計画区域を含めた土地利用方法の検討が必要なゾーン



調整池の位置・規模の設定

- ・調整池については、地区内の雨水排水を集めるため、**周辺よりも低く、かつ道路沿いなどの利用しやすい土地を避けた位置**に設定する。
- ・調整池の規模については定められた基準値以上とする。
- ・調整池へのフタがけによる上部有効利用についても経済性 (コスト) 等を踏まえ、今後検討していくものとする。

道路①のルート設定・勾配設定

- ・道路① (東西主要道路) のルートについては、学研地区とのネットワークを踏まえ、**整備済み道路 (コメリ南側) を起点として学研高山地区方面 (北東方向) へ抜けるルート設定**とする。
- ・勾配設定は、起点となる整備済み道路 (現況高さ134m) から地区内の終点部 (現況高さ152m) までの高低差18mを短い区間で**結ぶため急勾配**となる。(交差点付近は緩やかにする。)
- ※図面に表示のパーセントが高いほど急な坂道となる (参考値: サンマルクから北上する道路→約6%)

駅前広場の位置・規模と道路②の計画方針

- ・駅前広場の位置については、造成計画方針を踏まえ、**駅ホームと同程度の高さで設定し、道路②を短い区間で緩やかな勾配により計画・設計**する。(駅前広場と同程度の高さ (140m) の宅地を多くとることにつながる)
- ・駅前広場の規模については、**基準に基づき必要最低限の広さ**に抑え、周りの宅地を広く取る方針とする。

歩行者専用道路等による歩行者ネットワークの形成

- ・四季の森公園や既存の集落、地区西側開発予定地との歩行者ネットワーク確保のため、歩行者専用道路を設置する。調整池周辺の歩行者専用道路は、排水管の埋設用地としての機能も兼ねるものとなる。なお、**既存集落とのネットワーク (道路③) については、車も通れる道路**とする。

※道路、駅前広場、街区構成などは構想イメージであり、確定したものではありません。